

Document Summary



New
Search



Help

[Preview Claims](#)

[Preview Full Text](#)

[Preview Full Image](#)

Email Link: An icon representing an email envelope.

Document ID: J P 05-091908 A2

Title: WARP KNITTED TAPE FOR COVERED SLIDE FASTENER

Assignee: YOSHIDA KOGYO KK

Inventor: IKEGUCHI YOSHIHITO

US Class:

Int'l Class: A44B 19/34 A

Issue Date: 04/16/1993

Filing Date: 09/30/1991

Abstract:

PURPOSE: To provide the subject tape, which can accurately be reversed and formed at a definite position when used for a covered slide fastener, and a sewing position can easily be distinguished when the tape is sewn on an article to be attached.

CONSTITUTION: The objective tape 1 is knitted as follow, that is to say, for a fastener element-attaching part 2, nontextured yarn is used as the whole of yarn i.e., chain yarn 4, tricot yarn 5 and weft insertion yarn 6, and for a tape main part 3, the nontextured yarn is used as the chain yarn 4 and textured yarn is used as the tricot yarn 5 and the weft insertion yarn 6. Both of the parts 2, 3 on the tap 1 are allowed to differ each other in thickness, wales W3, W4 positioned at the boundary part between these parts are knitted in the same size, and a wale groove, in which the textured yarn and the nontextured yarn are mingled, is knitted between the wales W3, W4.

(C)1993,JPO&Japio

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-91908

(43)公開日 平成5年(1993)4月16日

(51)Int.Cl.⁵

A 4 4 B 19/34

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

2119-3B

審査請求 未請求 請求項の数3(全 6 頁)

(21)出願番号 特願平3-278718

(22)出願日 平成3年(1991)9月30日

(71)出願人 000006828

吉田工業株式会社

東京都千代田区神田和泉町1番地

(72)発明者 池口 祥人

富山県黒部市三日市4016

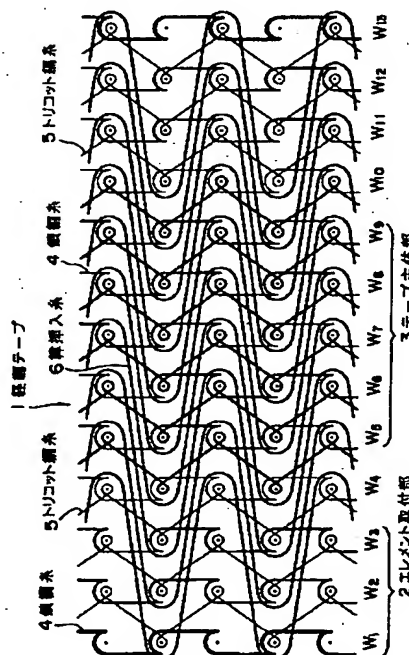
(74)代理人 弁理士 縣 一郎

(54)【発明の名称】 隠しスライドファスナー用経編テープ

(57)【要約】

【目的】 経編テープで隠しスライドファスナーに仕上げる時、一定位置で正確に反転成形ができ、被着物に縫合する際、縫合位置が容易に区別できる。

【構成】 隠しスライドファスナー用経編テープ1は、ファスナーエレメント取付部2の編糸、即ち鎖編糸4、トリコット編糸5、緯挿入糸6を全て非テクスチャード加工糸を用い、テープ主体部3の編糸、即ち鎖編糸4は非テクスチャード加工糸、トリコット編糸5および緯挿入糸6はテクスチャード加工糸を用いて編成し、両部2、3のテープ厚みを異ならしめ、この境界部に位置するウエルW₁、W₂を同一の大きさに編成し、ウエルW₁、W₂間にテクスチャード加工糸と非テクスチャード加工糸とが混在するウエル溝を編成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 縦方向に並列する複数のウエールを有する細幅の経編テープにおいて、ファスナーエレメント取付部の編目を構成する糸を全て非テクスチャード加工糸で編成し、テープ主体部の編目を構成する糸をテクスチャード加工糸と非テクスチャード加工糸とによって編成し、エレメント取付部とテープ主体部とのテープの厚みを異ならしめ、この両部の境界部に位置するウエールを同一の大きさに編成するとともにこのウエール間にテクスチャード加工糸と非テクスチャード加工糸とが混在するウエール溝を設けたことを特徴とする隠しスライドファスナー用経編テープ。

【請求項2】 経編テープの全てのウエールに存在する鎖編糸として非テクスチャード加工糸を使用し、各ウエール間に編込まれるトリコット編糸または二目編糸は、エレメント取付部にあっては非テクスチャード加工糸とし、テープ主体部にあってはテクスチャード加工糸を使用し、複数のウエール間に編込まれる緯挿入糸を、エレメント取付部にあっては非テクスチャード加工糸とし、テープ主体部にあってはテクスチャード加工糸を使用して編成した請求項1記載の隠しスライドファスナー用経編テープ。

【請求項3】 エレメント取付部に編込まれる第1ウエールの鎖編糸を太い編糸、第2、3ウエールの鎖編糸を中間の太さの編糸、第4ウエールの鎖編糸を細い編糸を使用し、かつエレメント取付部に編込まれるトリコット編糸または二目編糸は細い編糸を使用してテープを編成した請求項1または2記載の隠しスライドファスナー用経編テープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、隠しスライドファスナーに用いられるテープで、経編組織によって編成された隠しスライドファスナー用経編テープに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種の隠しスライドファスナー用の経編テープとして実開昭51-44405号公報が知られている。この経編テープは、被着物をテープ反転部上面に縫合する際、ミシン針刺通部に隣接するウエールの経編組織を他の隣接ウエールの編糸本数よりも少ない編糸の経編組織、具体的には全幅にわたって編込まれている鎖編糸を第4ウエールに限って省略し、ウエールの高さを小さくしたものである。

【0003】また隠しスライドファスナー用経編テープとして実公昭54-35769号公報が知られている。この経編テープは、一側縁部のウエールに隣接するウエールを縁部のウエールよりも高高に形成し、この高高ウエールの両側に配されるウエール溝を他の編地部分よりも広幅に形成するとともに、他の編地部分は均一な経編

組織に構成した経編テープである。

【0004】さらに、スライドファスナー用経編テープとして特公昭55-37241号公報が知られている。この経編テープは非テクスチャード加工糸を使って、鎖編と二目編との編組織によりウエールを形成し、これに収縮の異なる2種類のテクスチャード加工糸を緯挿入糸として編み込んだ経編テープである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】前項で述べた第一の公知の隠しスライドファスナー用経編テープは、エレメント取付部とテープ主体部との境界部における2個のウエールのうち、一方のウエールは、ウエールを編成する編糸の一部、たとえば鎖編糸を省略してウエールの高さを小さくし、大小の高のウエール間に被着物を縫合するミシン針の刺通を容易にしたものであるが、大小の高のウエール自体は編組織が異なるため、縦方向の伸縮度合が異なり、被着物を縫合したとき偏位を起し易く、正確な縫製、また体裁のよい縫製ができないことである。

【0006】また第二の公知の隠しスライドファスナー用経編テープは、エレメント取付部に該当する第2ウエールおよびその両側に配されるウエール溝を、他の部分における編地の形態と異なるように形成したもので、このことはファスナーエレメントを縫合するのに都合のよいように構成したものである。しかしこの第2ウエールおよびその両側のウエール溝以外の編地組織は均一であるから、隠しスライドファスナーに仕上げるとき、正確に反転部で折り曲げ成形ができないこと、また被着物に縫合するとき、縫合位置が明確に区別できないので、体裁のよい縫合ができないことである。

【0007】さらに第三の公知の経編テープは、普通タイプのスライドファスナー用の経編テープであるから、直ちにこれを隠しスライドファスナー用の経編テープとして適用することはできない。この経編テープはテープ全幅にわたって同一形態の編組織であり、ファスナーエレメント取付け、テープの反転成形、隠しスライドファスナーを被着物に縫合するなどの条件を考慮したものではないから、隠しスライドファスナー用としては役立たない。

【0008】この発明の隠しスライドファスナー用経編テープは、上述の問題点を解消するため発明されたもので、その目的は隠しスライドファスナーに仕上げるとき、正確な反転位置で折り曲げ成形ができ、しかも被着物に縫合するとき、縫合箇所が他の編地部分と容易に区別ができる隠しスライドファスナー用経編テープを提供することである。

【0009】

【課題を解決するための手段】前記の目的を達成するため、この発明の隠しスライドファスナー用経編テープは、縦方向に並列する複数のウエールを有する細幅の経編テープにおいて、その特徴とするところは、ファスナ

一エレメント取付部の編目を構成する糸を全て非テクスチャード加工糸で編成し、テープ主体部の編目を構成する糸をテクスチャード加工糸と非テクスチャード加工糸とによって編成し、エレメント取付部とテープ主体部とのテープの厚みを異ならしめ、この両部の境界部に位置するウエールを同一の大きさに編成するとともに、このウエール間にテクスチャード加工糸と非テクスチャード加工糸とが混在するウエール溝を設けた隠しスライドファスナー用経編テープである。

【0010】そして、経編テープの全てのウエールに存在する鎖編糸として非テクスチャード加工糸を使用し、各ウエール間に編込まれるトリコット編糸、または二目編糸は、エレメント取付部にあっては非テクスチャード加工糸とし、テープ主体部にあってはテクスチャード加工糸を使用し、複数のウエール間に編込まれる緯挿入糸を、エレメント取付部にあっては非テクスチャード加工糸とし、テープ主体部にあってはテクスチャード加工糸を使用して編成した隠しスライドファスナー用経編テープである。

【0011】さらに、エレメント取付部に編込まれる第1ウエールの鎖編糸を太い編糸、第2、3ウエールの鎖編糸を中間の太さの編糸、第4ウエールの鎖編糸を細い編糸を使用し、かつエレメント取付部に編込まれるトリコット編糸または二目編糸は細い編糸を使用して編成した隠しスライドファスナー用経編テープである。

【0012】

【作用】この発明の隠しスライドファスナー用経編テープは、第1、2、3ウエール部分がファスナーエレメントの取付けに供される部分であり、第1、2、3のウエール上面に隠しファスナーエレメントを配置し、第1、2、3の各ウエール間のウエール溝においてエレメント取付糸によって縫合し、ファスナーエレメントを取付ける。第4ウエールを基点にして第3ウエールがテープの平面より下方に位置するように反転して、隠しスライドファスナーに仕上げる。被着物に取付けるときは、第3、4ウエールの間のウエール溝において縫糸によって被着物に縫合し取付ける。

【0013】

【実施例】以下、この発明の隠しスライドファスナー用経編テープの実施例について図面を参照しながら具体的に説明する。

【0014】この発明に関する隠しスライドファスナー用経編テープの実施例は、図1から図6に示すとおりであり、図1の経編テープ1は、全幅が13ウエールから形成されエレメント取付部2およびテープ主体部3が構成され、左右対称の経編組織である。この経編テープ1は各ウエールに配される鎖編糸4が全て非テクスチャード加工糸であり、0-1/1-0の鎖編組織で編成される。またエレメント取付部2に該当する部分の各ウエール間に配される3本のトリコット編糸5は非テクスチャ

ード加工糸であり、中央のテープ主体部3における各ウエール間に配される6本のトリコット編糸5はテクスチャード加工糸であって、1-2/1-0のトリコット編組織で編成される。

【0015】さらに、全幅の各4ウエールにわたって配される0-0/4-4の緯挿入糸6は、両側2本が非テクスチャード加工糸であり、中央のテープ主体部3に配される6本の緯挿入糸6はテクスチャード加工糸である。

【0016】上記のとおり、編成された経編テープ1は、エレメント取付部2に該当する第1、13の各ウエール W_1 、 W_{13} の鎖編糸4は、太い編糸(150d)、第2、3、11、12の各ウエール W_2 、 W_3 、 W_{11} 、 W_{12} の鎖編糸4は、中間の太さの編糸(100d)、第4、10の各ウエール W_4 、 W_{10} の鎖編糸4は、細い編糸(70d)、そしてテープ主体部3に編込まれる第5~9の各ウエール W_5 、 W_6 、 W_7 、 W_8 、 W_9 の鎖編糸4は、中間の太さの編糸(100d)を使用し、エレメント取付部2に編込まれる両側の各3本のトリコット編糸5は、細い編糸(70d)、中央のテープ主体部3に編込まれる各6本のトリコット編糸5は、中間の太さの編糸(100d)を使用し、さらに緯挿入糸6は全て中間の太さの編糸(100d)を使用して編成する。

【0017】図3に示した実施例は、第1実施例に示された1-2/1-0のトリコット編組織の代替として、2-0/0-2の二目編組織を使用したもので、編成条件は前記トリコット編と同じであり、両側各3本の二目編糸7は非テクスチャード加工糸で細い編糸(70d)を使用し、中央の6本の二目編糸7はテクスチャード加工糸で中間の太さの編糸(100d)を使用して編成する。

【0018】また、前記0-0/4-4の緯挿入の代替として、0-1/4-3のシングルコード編を採択することもできる。

【0019】なお、両側の第1、13の各ウエール W_1 、 W_{13} の鎖編糸4を他のウエールの鎖編糸4と同じ太さの編糸を使用するとウエールの高が小さくなるので、太い編糸を使用して他のウエールの高と略同一にする。またエレメント取付部2とテープ主体部3との境界部に位置するウエール、即ち第3、4ウエール W_3 、 W_4 を同じ大きさにするため、第4ウエール W_4 に配される鎖編糸4を細い編糸にし、第3ウエール W_3 に配される鎖編糸4を中間の太さの編糸を使用することによって同一ウエールが形成されるところに特徴がある。

【0020】以上のとおり、編成された経編テープ1は、前項の説明および図5に示すとおり、テープの片側、即ち第1、2、3のウエール W_1 、 W_2 、 W_3 上面に隠しファスナーエレメント8を配置して第1、2、3の各ウエール W_1 、 W_2 、 W_3 間のウエール溝において縫糸9によって縫合しファスナーエレメントを取付け、

第4ウエール W_4 を基点にして、第3ウエール W_3 がテープの平面より下方に位置するように反転して、隠しスライドファスナーに仕上げる。そして図6で示すとおり、第3、4ウエール W_3 、 W_4 間のウエール溝を縫糸10によって、被着物11に縫合して、左右の経編テープ1、1に縫合された被着物11、11の縁部を密接する。

【0021】

【発明の効果】この発明の隠しスライドファスナー用経編テープは、以上説明したとおりの構成であり、この構成によって下記の効果を奏する。

【0022】経編テープを構成する編糸の形態、および編糸の太さを変えることによって、エレメント取付部とテープ主体部とのテープの厚みを異ならしめて、両部の区別を明確にしたから、この区別される位置を中心にして折り曲げれば隠しスライドファスナーとしての正確なテープ反転成形を行うことができる。

【0023】また、エレメント取付部とテープ主体部との境界部における第3、4ウエール間のウエール溝は非テクスチャード加工糸とテクスチャード加工糸とが混在しているため適度の硬さがあり、ファスナーエレメントを取付けた後、テープを反転し固定するのに都合がよく、またこのウエール溝にテクスチャード加工糸が存在させているから、ここに被着物を縫合するとき、ミシン針の刺通に対して融通性があるから、その縫合が容易である。さらに第4ウエールにも鎖編糸を編込み第3ウエ

ールと同じ大きさにしたから縦方向の伸縮が規制され、編糸を省略したものと異なり左右に偏位されないで、体裁のよい被着物の縫合ができるとともにスライダの摺動も円滑に行える利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例の経編テープの組織図である。

【図2】A、B、Cは図1に示した編糸の個々の組織図である。

【図3】第2実施例の経編テープの一部の組織図である。

【図4】A、B、Cは図3に示した編糸の個々の組織図である。

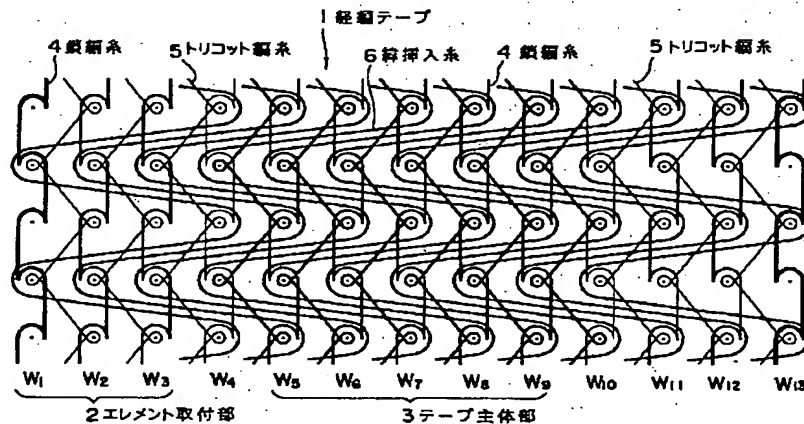
【図5】ファスナーエレメントを取付けた状態を示した横断面図である。

【図6】隠しスライドファスナーとして成形後、被着物に縫合した状態を示した横断面図である。

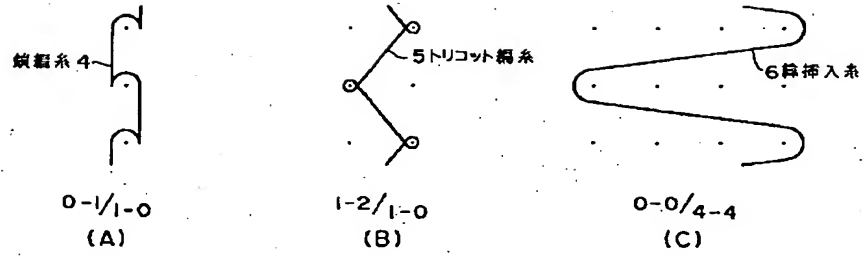
【符号の説明】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 | 隠しスライドファスナー用経編テープ |
| 2 | エレメント取付部 |
| 3 | テープ主体部 |
| 4 | 鎖編糸 |
| 5 | トリコット編糸 |
| 6 | 緯挿入糸 |
| 7 | 二目編糸 |
| 8 | ファスナーエレメント |
| $W_1 \sim W_{11}$ | ウエール |

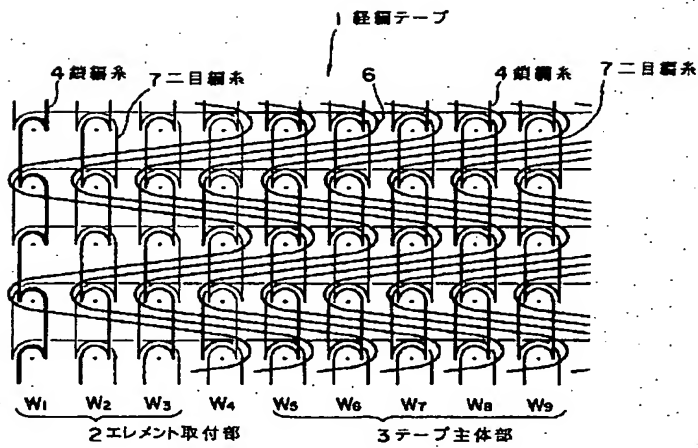
【図1】



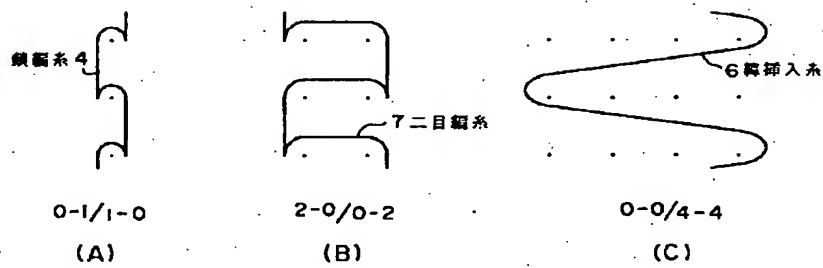
【図2】



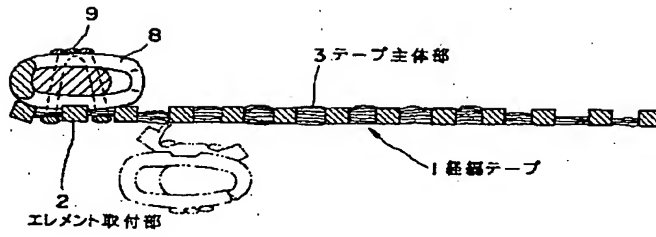
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

